

血のすえないひる(持尾)

靈願寺へでようとして、弘法大師が持尾を通つておつたときのことであつた。

のどがかわいたので、したたり落ちる水を両手でなぐつて飲むので、このまじかーびきのひるが、口をひっぱりついていた。弘法大師は、たいへんおこつて、そのひるをよると、血をすおつてつたその口を、きゅつとひねつてしまったといひつてである。それからのち、このあたりのひるは、ゆがんだ口になつてしまった。血をすうことができなくなったのだといわれている。

なお、おなじ弘法大師の話として、今ひとつ、大師がやはりこの土地を通りかかったときに、えんどうが食べたくなつたので、そのことを村の人たちにたのんだ。

ところが村の人たちは、だれもその大師の願いを入れて、えんどうを与えるものがいなかった。

そんなことがあつてから持尾では、えんどう作りはできぬけれど、ずっと不作がつひくつたのだといひ伝えられている。